


読書推進運動


 公益社団法人
読書推進運動協議会
 〒101-0051
 東京都千代田区神田神保町1-32
 出版クラブビル6階
 TEL 03(5244)5270
 FAX 03(5244)5271
 発行人 小塚 昌弘
 編集人 片岡 伸子
 定価 60円
会員の購読料は
会費の中に含まれる

No.621

- ★「敬老の日読書のすすめ」掲載図書一覧(2頁)
- ★「読書週間」開催について(3頁)



「敬老の日読書のすすめ」によせて
**この楽しみがもつと続いて
 くれますように**

株式会社新潮社 出版企画部

あぜつまさき
疇津真砂子

津野海太郎さんは、舞台の演出や教育の場でも腕をふるってこられました。なにより編集者、評論家として活躍。本にまつわる著作は15冊を超えます。そんな筋金入りの読書家が80代に突入し、いかなる変化を迎えているかを綴ったのがこの『最後の読書』です。ウエブマガジン「考える人」で現在も続く連載の最初の1年半分をまとめたもので、連載中から津野さんの文章に感じていたのびのびした軽やかさが、本になつてよりいっそう印象づけられました。

たとえば4章「目のよわり」につづく5章が「記憶力のおとろえを笑う」、10章「古典が読めない!」、13章「いつしか傘寿の読書日記」、ぼやきのようであるというか明らかというか、津野さんはタイトルもすべて自身でつけるので、原稿が届いた瞬間から、ワクワクする読書案内のはじまりです。老人と読書、というテーマは前著『百歳までの読書術』(本の雑誌社)で具体的に書かれていたので、今度はどんなことを?とかがあったら、「いや、70代と80代は全然違うの」とお答え。体力気力に著しい変化があつて、読みたい本も読み方も、がぜん変わってくるのだそうです。

まず登場するのは、若いころから親交のあつた鶴見俊輔の『もうろく帖』。70代にさしかかろうとする鶴見さんが「老化にともなう『ぼけ』や『モロク』といった現象を人生からのみじめな脱落ではなく、社会がはめる枷からの自由と

して明るく理解したい」とはじめたことに共感しながら、「でもかなり初期だな」と80歳を目前にした津野さんは思う。そして鶴見さんが脳梗塞で言語機能を失い、亡くなるまでの3年半をただ本を読みつづけたことに強いショックを受けて、「もしこれが私だったらどうだろう」と自問します。プロの本読みとしてでなく、老いを実感するひとりの読者として、身内に響いてくることばやできごとをたぐりよせ、率直に描き出していくのです。ほかに、幸田文、瀬田貞二、古井由吉、メイ・サートン、紀田順一郎、山田稔、吉野源三郎、獅子文六、金子兜太、須賀敦子……。長年の蓄積を物語る多彩な作家が並ぶなかで、意外なのが6章「本を讀む天皇夫妻と私」。津野さんが幼かった日に夢になつた児童書、エリザベス・グレイ・ヴァイニング『旅の子アダム』から、上皇と上皇后を同時代を生きてきた読書人としてとらえる、ユニークな考察です。「せつかく老人になつたのに」古典を読みこなす力がないという嘆きは、戦後教育から古典籍が省かれて久しい現代では、ほぼすべての人に当てはまるでしょう。池澤夏樹・個人編集の『日本文学全集』(河出書房新社)シリーズ、伊藤比呂美が手掛けている仏教典や中世説話の現代語訳に、津野さんは感心します。そして、かつて堀田善衛が白井吉見に教えられて読んだ本居宣長『古事記伝』や、西郷信綱『古事記注釈』、山本左右吉の『説教節の語りと構造』論など先人の仕事、現代作家にもたしかに伝わり、生きていくことを発見します。本を通じて自分に培われた豊かなものを、次につづく世代にどう手渡すか、楽しみながらしみじみと考えさせられる読書案内です。



2019 敬老の日読書のすすめ

心ゆたかに生涯読書

「2019 敬老の日読書のすすめ」は、例年どおり、各道府県の読書推進運動協議会から寄せられた「敬老の日（高齢者）」にすすめる本の推薦書目をもとに、公益社団法人 読書推進運動協議会事業委員会が24点の本を推薦図書に選定、リーフレットを製作し、全国の公共図書館や有力書店に配布、実施します。

本年度は40の読進協から、65点の書目の推薦をいただきました。もっとも多くの推薦があったのは、樹木希林の『一切なりゆき』で、9つの読進協から推薦がありました。ついで、坂東眞理子の『70歳のたしなみ』が7つの読進協から、内館牧子の『すぐ死ぬんだから』が6つの読進協から推薦があり、人気を集めました。

今回は、阿川佐和子、伊藤比呂美、樹木希林、瀬戸内寂聴、曾野綾子の複数の作品に推薦がありました。とくに樹木希林の各作品に複数の読進協からの推薦があり、人気の高さがうかがえました。

また、「人生100年時代」に向けて前向きに過ごすことをテーマにしたエッセイ、小説も目立ちました。事業委員会の書目選考基準は、①各出版社1点 ②複数県推薦書目の検討 ③対象読者向きか ④



落ち着いた藍色のリーフレット

そのほか各委員が特別に推薦したい書目などを勘案して検討。最終的に委員会全体で確認し、24点が決定いたしました。

この推薦図書を掲載したリーフレットは、14万3000部を製作。各都道府県の読書推進運動協議会や中央図書館を通じて各公共図書館に、取次会社を通じて全国の書店に配布を行い、活用していただきます。また、当協議会ホームページに、展示用ポップのデータも用意します。

なお、リーフレットは、多少の予備を用意しておりますので、必要な場合は、当事務局までお問い合わせください。

03-5244-5270
03-5244-5271
FAX 03-5244-5271
e-mail info@dokusyo.or.jp

「敬老の日読書のすすめ」リーフレット掲載書目一覧

著者名	書名	定価	出版社
内館 牧子	すぐ死ぬんだから	一六七四円	講談社
阿川佐和子	ことごとこーこ	一六二〇円	KADOKAWA
柚木 麻子	マジカルグランマ	一六二〇円	朝日新聞出版
小川 糸	針と糸	一五二二円	毎日新聞出版
藤井光温又兼 斎藤眞理子ほか	本にまつわる世界のことは	一七三八円	創元社
氏家 幹人	江戸人の老い	九一八円	草思社
樹木 希林	一切なりゆき	八六四円	文藝春秋
養老 孟司	猫も老人も、役立たずでけっこう	一四〇四円	河出書房新社
佐藤 愛子	人生は美しいことだけ憶えていればいい	一二九六円	PHP研究所
三浦雄一郎	歩き続ける力	一〇八〇円	双葉社
市原 悦子	市原悦子ことばの宝物	一四〇四円	主婦の友社
吉沢 久子	楽しく百歳、元気のコツ	一二九六円	新日本出版社
坂東眞理子	70歳のたしなみ	一一八八円	小学館
津野海太郎	最後の読書	二〇五二円	新潮社
曾野 綾子	老年を面白く生きる	一〇八〇円	海竜社
立川 談慶	老後は非マジメのすすめ	一六二〇円	春陽堂書店
渡部 昇一	終生知的生活の方法	九一八円	扶桑社
森永 卓郎	ピンボーでも楽しい定年後	八四二円	中央公論新社
瀬戸内寂聴	先生、ちょっと人生相談いいですか？	一四〇四円	集英社インターナショナル
伊藤比呂美	桂歌丸大喜利人生	一六二〇円	ぴあ
日本テレビ	鼓に生きる	二七〇〇円	淡交社
田中佐太郎	レンタルなんもしない人のなんもなかった話	一四〇四円	晶文社
水川まりこ	レンタルなんもしない人のなんもなかった話	一三五〇円	彰国社
田中 正敏	健康は住まいがつくる	一五二二円	大和書房
阿部 絢子	ひとりサイズで、気ままに暮らす	一五二二円	大和書房



2019・第73回 「読書週間」開催についてのお願い

公益社団法人 読書推進運動協議会は、恒例の秋の行事「読書週間」を、本年も主催いたします。

例年同様のご支援とご協力をお願い申し上げますとともに、期間中およびその前後を通じ、自由な発想による企画を多数お進めいただき、この運動の実効が上がりま

すよう、お願い申し上げます。今年の標語は「おかえり、葉の場所待ってるよ」です。期間中関係各位によって全国的に実施される行事は、この標語を中心に展開されることとなります。

公益社団法人 読書推進運動協議会は、下記の4項目を「読書週間」のテーマとして掲げていきます。

(1) 国民すべてに

読書をすすめる運動

「秋・読書週間に、ぜひ、一冊の本を」が活動の原点です。「読書週間」は、読書の楽しさを伝え、すべての世代の人たちに本に親しむきっかけをつくっていただくためにあります。多くの人が書店や

図書館で一冊の本を手にとってみる、そんな展示や行事を期待しています。

(2) とくに青少年に

読書をすすめる運動

いつの時代も「子どもが本を読まなくなった」といわれてきました。近年は、受験戦争に加え、映像や電子メディアなどの発達で、ますます子どもたちの「読書」の時間がせめられていきます。しかし、どんなメディアの時代でも、それを動かす主役が人間である以上、活字文化はすべてのメディアの基礎です。とくに幼少時から青少年時においての本とのつきあいが重要という認識のもとに、この運動を進めています。

(3) 読書グループの結成促進

現在、全国の読書グループ(読書会、文庫、実演グループなど)は約1万2300あります(公益社団法人 読書推進運動協議会『2018年度全国読書グループ調査』より)。グループ読書は読

書の楽しみ、大切さを広めることで深い意義を持ちます。公益社団法人 読書推進運動協議会は「読書週間」の期間中に「野間読書推進賞」と「全国優良読書グループ表彰」を実施し、全国の読書グループを応援しています。

(4) 家庭文庫、地域文庫、職場文庫の充実

読書は身近な場所に本が豊かにあることが必要です。各地域の公共図書館が充実し、読書グループや家庭文庫、地域文庫が数多く作られること、また、図書館や文庫を支える地域の書店の活躍が、本の文化を支え、ひいては日本文化の発展に寄与することと私たちは信じています。

名称 2019・第73回

読書週間

主催 公益社団法人

読書推進運動協議会

(主要構成団体 日本書籍出版協会、日本雑誌協会、教科書協会、日本出版取次協会、日本図書館協会、全国

書店業組合連合会)

後援 文部科学省(申請中)

期間 10月27日(日)から11月9日(土)まで

標語 おかえり、葉の場所待ってるよ

《行事内容》

●「全国優良読書グループ表彰(第52回)」の実施

●「野間読書推進賞(第49回)」贈呈式開催

●ポスターおよび広報文書配布

(公共図書館、全国の小・中・高等学校図書館、書店、関係出版社、報道機関など)

●その他、道府県の読書推進運動協議会、関係各団体の協力を得て、各種行事実施の推進

《各種機関へお願いの行事内容》

●公共図書館、公民館、小・中・高等学校の学校図書館などにおいて「読書研究会」「読書のつどい」「作家・評論家による講演会」「図書・雑誌展示会」著者をかこむ会などの開催。「読書感想文・感想画コンクール」の実施

●道府県の読書推進運動協議会による道府県単位の「読書大会」などの開催

●出版社、新聞社、放送局、文化団体などによる、被災地域、児童養護施設、矯正施設などへ向けた「図書・雑誌の寄贈運動」の実施

2019 読書週間 ポスターイラスト



イラスト
富山 涼太

(ポスターは9月中旬完成予定です)

■「子どもの読書推進会議」2019年度第1回総会

「上野の森親子ブックフェスタ」報告 と「絵本ワールド」の開催継続を支援

7月19日(金)、東京都千代田区神保町の出版クラブビルで「子どもの読書推進会議」2019年度第1回総会が開催され、2018年度の事業報告と収支決算書および2019年度の事業計画と収支予算書が説明・討議され承認された。主要事業のうち、日本児童図書出版協会、出版文化産業振興財団と主催する「上野の森親子ブックフェスタ」は、毎年ゴールデンウィークの5月3日〜5日の3日間、東京の上野恩賜公園で、読者と本の楽しい出会いの場として、盛況のうちに開催されている。



盛況の「上野の森親子ブックフェスタ」

2018年、2019年とも6万冊を超える出品があった。

日本児童文学者協会、日本児童文芸家協会、日本児童出版美術家連盟、日本国際児童図書評議会の各寄稿家団体にも「出展・協力」をいただき、サイン会や実演などを通じて読者と寄稿家の方々が直接触れあうことのできるイベントとしても定着しつつある。

課題だったレジ行列の問題は、2018年にレジ台数を3日間延べ36台に増やし集中レジに方式に変えることで大きく改善したが、2019年は好天にも恵まれ、初日はレジ待ちの行列ができたため、急遽レジを3日間のべ41台に増設して対応した。

また荒天による中止リスク対策も含め、ひきつづき主催団体として拠出金を支出することが承認された。
なお従来8月末に行っていた報告会に替えて、2019年は後援団体および出版社にむけて報告書をメールにて送付する予定である。



絵本ワールドでのおはなし会 (2018年 新潟会場)

もうひとつの主要事業である

絵本ワールドは、2018年は奈良県、福島県、三重県、和歌山県、新潟県の5か所で開催された。2019年は奈良県、福島県、新潟県、三重県で継続開催されるほか、徳島県、兵庫県が新規に加わり、6か所で開催の予定である。

絵本ワールドについては、開催をより強力に支援するため、各地主催者からの要望に応える形で、従来「1〜3年目は全額、4年目以降は40万円を上限に半額補助」となっていた書棚運搬費補助の運用を見直し、今年度から「4年目以降も40万円を上限に全額補助」とすることとした。
議事終了後に各参加団体から活動報告のあり、野間省伸代表が挨拶して閉会となった。

■「第20回絵本ギャラリーin奈良」

今年で20年目を迎えた 絵本との出会いのイベント

7月27日(土)、28日(日)、奈良県の奈良市ならまちセンターで「第20回絵本ギャラリーin奈良 あそびにおいで! 絵本の世界へ」(主催 同実行委員会)が開催された。今年度のオープニングセレモニーには、京都市動物園のツシマヤマネコのマスコットキャラクター

「サクラちゃん」も参加して、ステージ上でくす玉を割った。27日は、絶滅危惧種の保護を訴える紙芝居とワークシヨップ「ツシマヤマネコとコウノトリ守りたい日本のどうぶつたち」が開催された。まず絵本作家・児童文学



サクラちゃんと子どもたちがくす玉を割って開会!

作家のキム・ファンさん(京都市在住)が新作紙芝居『まいりました!』などを披露、続いて京都市動物園副園長・獣医師の坂本英房さんと飼育員の高木直子さんが、動物の飼育の苦労やイエネコと比較したツシマヤマネコの特徴について、わかりやすく説明した。最後に参加者全員で動物のペーパークラフトを作った。

28日は「大きな妖怪をみんなで描こう! 奈良の妖怪再発見」と題して、絵本作家・広瀬晃也さん(東京都在住)の作品『妖怪横丁』『妖怪交通安全』などのおはなし会や、参加者みんなで大きな紙に妖怪を描くワークシヨップが行われた。あわせてロビーでは広瀬さんの絵本の原画も展示された。

メイン会場のほかでも、子どもたちが3頭の犬と一緒に絵本を読む体験や、地元の高校生による絵本劇と工作、ボランティアグループによるおはなし会や人形劇、赤ちゃん絵本やデジジャー図書紹介など、さまざまなイベントが開催された。

「みるよむあそぶ金の船・金の星」開催

『金の船』刊行100周年 子どもたちの未来と平和を願う

昨年の『赤い鳥』刊行100周年に続き、今年には童話雑誌『金の船』刊行100周年。これを記念し、7月19日(金)〜28日(日)に東京都台東区の上野の森美術館で「みるよむあそぶ金の船・金の星子ども本の100年展(主催)金の星社/毎日新聞社」が開催された。

竹久夢二の直筆原稿が展示され、大正デモクラシー時の自由への希望と、子どもたちの未来を願う思いが伝わってきた。

現代の絵本コーナーでは、いもとうよこさん、あきやまただしさん、みやにしたつやさんほか人気作家の原画を絵本とともに展示。来場者は原画と絵本を見比べながら、楽しんだ。鈴木まもるさんの『せんろはつづく』の巨大ダンボール列車などで遊べるコーナーもあり、子どもたちの人気を集めた。

そのほか、太平洋戦争中に国策への協力として発行された児童書、『チロヌップのきつね』『ガラスのうさぎ』『かわいそうなぞう』など平和を考える絵本・児童書の原画も紹介された。

金の星社では、『金の船』など自社で保存している資料については、図書館・美術館などへ展示用の貸出も可能としている。

資料の問い合わせ先
株式会社 金の星社
TEL 03-38861186
<http://www.kimihoshi.co.jp>



野口雨情、中山晋平、本居長与、竹久夢二などが手がけた『金の星 童謡曲譜』

「日本子ども本研究会 全国大会」

すべての子どもに「読む権利」を保障するために考え、行動を

7月27日(土)・28日(日)、東京都渋谷区の国立オリンピック記念青少年総合センターで、「第51回 日本子ども本研究会 全国大会(主催)一般社団法人 日本子ども本研究会」が開催された。今年のテーマは「未来をひらく子どもと本」読もう語ろう広げよう。閉会に先立ち行われた、表彰式では、実践・研究賞が「日本子ども本研究会福岡支部40年の歩み」、作品賞が「ある晴れた夏の朝(借成社)」、「ソロモンの白いキツネ(あすなろ書房)」、「しあわせの牛乳(ポプラ社)」に贈られた。

開会式の基調報告で会長の野口武悟さんは、近年の子ども虐待、貧困率の増加をあげ、「とりわけ、貧困は読解力の発達も阻害する」と調査結果から明らかにってきている。『日本人の識字率は100%』という幻想の陰で、確実な読み書き能力の獲得から取り残された子どもたちがたくさんいることを認識し、それぞれの立場でできる支援を考え、実践していかなくてはなりませんと呼びかけた。

記念講演は絵本作家 長谷川義史さんの「絵本を通して子どもたちに伝えたいこと」。ゆかいな本、平和を考える本など自作の読み聞かせをしつつ、「(自分の先祖は)どこまでつながっているのか」と、子どもときから思っていた。(命がつながってきたことが)単純にありたい。人の命を奪う、いじめることは絶対にしてはいけない」と、平和への思いを語った。

その後、4つの講座、5つの読書会、7つの夜のつどい、10の分科会が開かれ、活発な意見と実践の交流が行われた。分科会「図書館と出版」には、公共・学校図書館司書と出版社の編集者などが参加。図書館側からは「読むことが苦手な子どもが楽しめる本(内容、字の大きさ、1ページ・1行の文字数、ビジュアルの多用など)がほしい」、「調べ学習の本は、情報更新に対応できるよう、手軽に買い換えができる方がいい(堅牢な本を求める声もある)」、「子どもたちはネットが好き。SNS上に本のCMを流してみてもいい」など

の意見が出され、出版社からは子どもたちをひきつける物語の導人や進め方、イラストの入れ方、世界や科学への興味関心を育てるための工夫などが披露された。



会場に設けられた長谷川義史さんの著作コーナー

閉会式の講演は、編集者・大文学講師の細江幸世さんの「本を読むってどういうこと? 子どもの育ちをささげる本」。読み聞かせ、ひとり読みなどの4つの「読む」という行為の性質と効果を説明し、「子どもの発達はらせん状。さまざまなスタイルでのコミュニケーションが必要」と述べ、「本を読むことが『生きる力』となることは、本を読むことで回復力、思考の柔軟性、しなやかな心を獲得すること。多様な選択肢の中から自分のやるべきことを見つけ、判断できる大人になってほしい」と語った。

優良読書グループの歩み (8)

2018年度の「読書週間」に際して道府県読書推進運動協議会より推薦され、本会において表彰した全国の優良読書グループの活動報告を掲載いたします。
(順不同)

読みかたりグループ「つくしんぼ」

代表者 岡光

秋田県雄勝郡東成瀬村

〈推薦〉
秋田県読書推進運動協議会

2006年、「子どもたちに絵本の楽しさを伝えたい」と願う仲間数人とはじめた。仲間も増え、学校などからの依頼も出てきた。2008年、第1回総会を開き、組織と会則を決めた。代表・副代表・事務局・会計を各1名、監事2名とし、目的を「読みかたり会などにより、子どもたちの情緒を豊かにすることで、思いやりの心を育み、暖かな気持ちで地域社会に係わっていきける人間形成の一助となること」としたが、その後、子どもたちの読書環境推進のために、本に親しむ文化を家庭や地域にも浸透させたいとの願いも、目的につけ加えた。

定例おはなし会のほかに、お

出かけおはなし会の依頼も多くなってきたが、毎月の定例打ちあわせ会で担当者を決めていく。複数で担当する場合は、事前に通しの練習や内容の検討も工夫している。

活動の概要

(1) 定例おはなし会

毎月第一土曜日 拠点地の図書室で

(2) お出かけおはなし会など

① 保育園・小学校・中学校

② 高齢者施設、デイサービス、子育て広場

③ 地域の集會やイベント

④ 他地域の支援学校や障がい者施設には、県南ブックコミュニティの一員として参加

⑤ ブックスタートの手伝い

⑥ 村芸文協交流会参加

③ 村民を巻き込むイベント開催

① 村のPTA連合会の研修として

② 保育園の祖父母PTAと共催して

① 村のPTA連合会の研修として

② 保育園の祖父母PTAと共催して

③ 村民を巻き込むイベント開催

① 村のPTA連合会の研修として

② 保育園の祖父母PTAと共催して

③ 地域の版画家の版画や絵本の原画をお借りしての「原画展と特別おはなし会」

④ 小学校の祖父母PTAと共催して

イベントは、自分たちの演示のほかに、芸文協や子育て支援からの支援もいただき、外部からの演奏家や声楽家、そして読み聞かせ人を講師にお招きして、実施している。

研修

聞いてくれる人たちのために、ボランティアとしての誇りと自信を深めたい。

① 他グループとの交流学習会

② 民や官主宰の研修会講習会への積極的参加と伝達



講師や音楽家を招いての特別おはなし会

③ 個人の練習だけでなく1月の初読み会からはじまり、毎月の打ちあわせ会での読みの聞きあい、講師を招いての研修会など

課題

ボイスレコーダで自分の読みを聞いたりしてはいるが、たがいに気づいたことを話しあう時間が足りない。また、選書の問題が大きい。自分も好きな絵本を選んではあるが、絵や文が優れた「いい絵本」というものを選ぶ視点がそろわないこともある。ボランティア自身の人間性や価値観、絵本観についても会員で勉強していききたい。

朗読なぎさ会

代表者 池淵美津子

鳥取県境港市

〈推薦〉
鳥取県読書推進運動協議会

このたび、鳥取県読書推進運動協議会のご推薦により、「第51回優良読書グループ」として受賞できましたことは、長年にわたります関係各位のご支援のおかげと心より感謝申し上げます。

「朗読なぎさ会」は、26年前

(1992年)、境港の「なぎさ会館」にて、南家教子先生指導のもと勉強会を開催し、活動がスタートしました。

その翌年の、『境港百景』出版記念朗読会開催と朗読テープの作成は、会員のみならずたくさんのみなさまの協力により大きな成果を残し、その後の活動の原点となりました。

発足以来、毎年のように発表の機会をいただき、地域に根ざしたさまざまな活動を続けてきました。「春のふれあいステージ」での金子みすゞ詩集朗読「境むかし語り(鬼が沢の伝説)」、「境港妖怪フェスティバル(のんのんばあとオレ)」でのゆかいな朗読劇などなど。また2002年に開催された国民文化祭での京極夏彦作『お化け竜巻』は好評を得、その後、キャンドルナイトin境港、明治の芝居小屋「朝日座」(米子)にも出演できたことは、得がたい貴重な経験でした。そして2006年には、感謝の意とともに「なぎさ会15周年記念朗読コンサート」の日に贈る言葉」を開催しました。

またその間、1994年からはじめた市内7か所の介護福祉施設への朗読ボランティアは、笑顔で



子どもだけでなく大人も楽しむおはなし会

迎えてくださるみなさまに親しまれながら、今年で25年目を迎えました。
一方、子どもたちと絵本との楽しい出会いも大切に思い、活動してきました。

2002年からはじまった、「ブックスタート」、2005年からの「ブックスタートプラス」にも開始当初から参加し、2011年より続く「地域子育て支援センターひまわり」と市民図書館「おはなし広場」での毎月1回のおはなし会では、大人も子どもも一緒に楽しい時間を過ごしています。子どもたちのいきいきとした眼差し、豊かな感性を育みながら成長してい

く姿は、私たちの活動の大きな原動力となっています。

笑顔あふれるまち境港となり、ますようお願いしつつ、このあとも、会員一同和気あいあいと自分たちらしく、できることからモットーに、活動していきたいと思

総社朗読グループ「さつき会」

代表者 土井しのぶ
笠原 仁美

岡山県総社市
岡山県読書推進運動協議会
(推薦)

総社朗読グループ「さつき会」が発足して37年になります。総社市に新しく図書館が設立されたのを契機に「朗読講座」が開催され、続いて総社市から、受講生に「広報」録音の要望がありました。それがきっかけとなり8人が集まり「さつき会」を立ちあげました。

その後、朗読技術の向上を目指そうと、月1回の研修会をはじめました。テキストを録音し、持ち寄り、そのテープを参加者全員で聞き、講師を交えて率直に批評をしあうというものでした。そのおかげで私たちは、図書館に納める



録音図書の作成、朗読、読み聞かせと大活躍!

「テープ録音図書」を作成できるようにになりました。講師にはテープをすべて聞いてもらい、何度もやり直しをしたうえで作成しました。納め終えたときの感慨は忘れられません。

もちろん、月1回発行の『広報そうじや』の録音、年4回発行の『社協だより』の録音活動も継続しています。

7年前、『さつき会30年史』をCDで作成しました。会員全員の生の声は、ともに歩んだ日々を瞬時によみがえらせてくれます。CDは県立図書館にも寄贈させていただきます。

最近はじめた図書館での活動は、年に4回の「大人のための読

み聞かせ」です。「戦争」恋」など、毎回テーマを決めて、何人かが読み、参加者で聞きあいます。フランクに感想を述べあえて、たいへん好評です。

「朗読」を基盤にした活動として、施設訪問もしています。特別養護老人ホームへは年4回、訪問しています。季節の草花を持参し、なつかしい歌、紙之居、本読みなど、入所されている方々と一緒に楽しんでいきます。

また、総社市福祉作業所の「ふれあい広場」に毎月訪問しています。当初は、私たち主導でしたが、近年は作業所のみなさんたちみずから「私、やりたい!」と、本読み、スポーツニュース、CDで歌うなど、発表の場となってきました。

現在、21名の会員で活動をしています。

時代の流れは、カセットテープでの録音がCD録音へと変遷してきました。これが高齢化のメンバーには難関です。それでも、ここで気持ちを新たに、関係のみなさまのご指導をいただきながらがんばっているところです。

贈りものに。お礼、お返しに。

東山魁夷シリーズ

図書カード NEXT



1,000円「夏に入る」



3,000円「緑溪」



5,000円「秋暁」



10,000円「白馬の森」

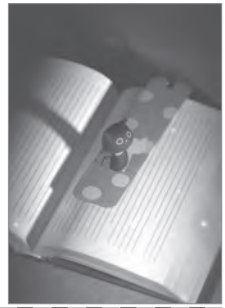
◆これまでの図書券・磁気式の図書カードも引き続きご利用になれます。

日本図書普及株式会社

2019・第73回『読書週間』イラスト 入選作決定



大賞は 富山涼太さん →
「おかえり、栞の場所で待ってるよ」



7月16日(火)、公益社団法人読書推進運動協議会の「読書週間」ポスターイラスト選定事業委員会(出席16名)が開催され、「2019第73回 読書週間」のポスター用イラストが決定しました。

本年度の応募総数は448点。事務局による第一次選考で30点を選び、第二次選考ではデザイナー2名が12点を厳選。最終選考を事業委員による選考委員会が行い、大賞、優秀賞、入選の受賞者を決定しました。

■大賞(賞金10万円)——1名

富山涼太さん(愛知県津島市)

■優秀賞(賞金1万円)——3名

佐藤圭子さん(東京都荒川区)

高木延枝さん(長野県中野市)

岩下詢海さん(福岡県春日市)

■入選(記念品)——8名

鈴木陽香さん(愛知県名古屋市中区)

なにかいおかりさん(東京都杉並区)

和田あかねさん(東京都二鷹市)

大関璃子さん(東京都杉並区)

成瀬沙緒里さん(福岡県福岡市)

永岡みつぎさん(東京都豊島区)

倉羽博之さん(千葉県市川市)

鶴飼二葉さん(神奈川県川崎市)

本年度のポスターイラストは、標語「おかえり、栞の場所で待つ

てるよをテーマに募集しました。栞という具体的なモノと「待つ」という行為をどう表現するか、さまざまな工夫がこらされた作品が寄せられました。

大賞は、愛知県津島市の富山涼太さん。黒猫の「待っている」表情が、なんとチャイミング。大賞受賞者のことばは、来月号に掲載します。

優秀賞は、左のとおりです。受賞作はすべて、読書推進運動協議会ホームページに掲載します。



佐藤圭子さん



高木延枝さん



岩下詢海さん

事務局報告(7月)

- ・2日「子どもの読書推進会議 2018年度事業報告書」入稿
- ☆3日「会員各社へ総会議事録、会費請求書を送付
- ☆8日「機関紙『読書推進運動』620号入稿
- ☆9日「機関紙『読書推進運動』620号責了
- ☆9日「読書週間」ポスターイラスト事務局内選考会 開催
- ☆11日「読書週間」ポスターイラストデザイナー選考会開催
- ☆12日「機関紙『読書推進運動』620号出来
- ☆16日「今年度優良読書グループ推薦依頼を道府県読書推進運動協議会へ送付
- ☆16日「読書週間」ポスターイラスト選定事業委員会 開催
- ・17日「講談社社長室と「子どもの読書推進会議」第1回総会について打ちあわせ
- ・18日「絵本ワールドinいがた2019」について新潟日报社と打ちあわせ
- ・19日「金の星社創業100周年記念「みるよむあそぶ金の星」展オープンニング」に出席
- ・19日「2019年度子どもの読書推進会議総会」開催
- ☆22日「読書週間」趣旨書入稿
- ☆22日「敬老の日読書のすすめ」リーフレット入稿
- ☆22日「日本雑学協会へ「読書週間」雑誌広告掲載への協力依頼
- ☆23日「2019年度第2回常務理事会」を開催
- ☆25日「文部科学省に第73回「読書週間」後援名義使用許可願いを送付
- ・27日「第20回絵本ギャラリーin奈良」に出席
- ・27日・28日「日本子どもの本研究会 全国大会」展示参加
- ・31日「文部科学省に令和元年度「子供の読書推進等」に関する調査研究」事業審査表を提出

編集部&事務局のひとこと

●「僕等も御国の爲に 銃後少年少女美談集」...これは、上野の森美術館の「みるよむあそぶ金の星」の星」で負の歴史(これを学ぶことはほんとうに大切)として展示された、戦時下に金の星社が出版した本のタイトルだが、国策への協力を求められて、同様の児童書や絵本を出版しています。うつとりするような「金の船」のコーナーを鑑賞したあとに目にする、「戦争って、美しいものや楽しいこと、夢や希望がキラキラなんだ」とあらためて思います。

●日本子どもの本研究会の記念講演で長谷川義史さん。タイトルだけで大笑いしてしまう「おならまんざい」(小学館)を読み聞かせて、「アホな本です。アホな本でも、平和でなければ笑えないんです」とひとこと。その後、「だじゃれ世界一周」(理論社)の読み聞かせでは、「世界情勢が悪くなってきたのに、こんな本つくつていいのかなと思っただけだ、おもしろいことを自粛する方がよくない。(宗教や風習など)こちらの常識が当てはまらないこともあって、識者に見てもらった」と、苦勞話も披露してくれました。

●きれいなものに憧れる、おもしろいことで大笑いする、当たり前のことですが、平和であるからできること。なんだかトゲトゲだな、自分と違っているからおもしろい、夏休みそんな読書体験を、子どもも大人もぜひ!

(伸)